

令和6年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

令和6年度の幼稚園評価は、例年に引き続き「自信をもって勧められる園づくりを目指して③～創立100周年へ向けて～」をテーマとして掲げ、教職員それぞれが自己評価を実施いたしました。

就労に対する男女共同参画社会が推進され、認定こども園や保育園への入園希望者が増加している昨今。また少子化も急速に進行しており、改めて幼稚園の存在意義が問われています。令和10年12月12日に創立100周年を迎える高田幼稚園としては、今後も津市の幼児教育振興・発展に寄与すべく、幼稚園評価を通して職員一人ひとりが自らの教育・保育活動や園運営を振り返り、現状を見つめ直す機会としました。そして、それぞれの評価結果について皆で話し合うことにより、成果や今後の課題・改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を受け止め、今後更なる「教育活動の充実・教育環境の整備・教職員の資質向上」に努めてまいります。

I. 教育理念

当園は、真宗高田派本山専修寺の園として、宗祖 親鸞聖人の御教えのもと以下の心（生きる力）を育てています。
「あいさつ」「掃除」「礼儀」を実践する心（利他奉仕）・自らを尊び、また他を尊ぶ心（感謝）・日々の生活を楽しく豊かに過ごす心（希望）・自然や生き物に興味・関心を持ち、探求する心（好奇心）

本山参詣、園での仏教行事、日々の生活を通して阿弥陀如来(ののさま)・親鸞聖人の御教えを聞き、園児・教職員ともに「なもあみだぶつ」（ごめんなさい・ありがとう）と手を合わせることから始まる一日。集団での「あそび・運動・表現・音楽・製作・英語・行事・地域交流」等、様々な体験を通して「主体性」「意欲」「基本的生活習慣」「創造力」「想像力」「発想力」「コミュニケーション力」「運動力」など、「人生の土台・基盤」となる要素が育まれます。子どもたちが自ら考えることを楽しみ、表現することを喜び、その中で自分のことも相手のことも信頼し、尊重し、相談し、選択し、決定できるよう教育環境を整え、一人ひとりの姿に応じた教育・保育を行っています。子どもは集団生活を通して「ありがとう」「ごめんなさい」の心が育まれ、互いに受け止め認め合う中で、のびのびと「自分らしさ」を発揮できるようになります。園生活の中で好きなことや得意なことを発見し「幼稚園ってたのしい!」「明日も幼稚園にいきたい!」と、子どもにとって「安心できる場所」「あたたかい場所」であり続けることを園の理念としています。

II. 今年度の重点目標

自信をもって勧められる園づくりを目指して③～創立100周年へ向けて～

III. 評価項目と取組み状況

自己評価項目		取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指す③	1 創立100周年へ向けて具体的に「自信を持って勧められる園づくり」に取り組むことができたか。（理念）	令和5年度に教育理念を新たに言語化したが、今年度は改めて、それらの理念が現場で実践されているのか確認を行った。私立幼稚園はそれぞれ建学の精神を柱として教育・保育を進めているが、当園が高田本山立の園（仏教園）として「現代においてどのような役割を担っているのか」「子どもたちの未来に対しどのような責任を負っているのか」「どのような覚悟をもって理念の旗を立てるのか」を、園長、副園長、主任が中心となって各学年・クラスの日々の保育をよく観察し、保育現場を担う教諭と協力しながら実践と改善を重ねた。その結果、教職員全員が成果ありきではなく、またカリキュラム主導でもなく「子どもたち一人ひとりの姿が優先され、尊重されることから始まる」教育・保育への理解をより深め、実践することができたと思う。
	2 創立100周年へ向けて具体的に「自信を持って勧められる園づくり」に取り組むことができたか。（施設整備）	「給食室」（園舎内改修による新設）・「満三歳児保育室」（園庭に建設）の施設整備事業を進めることができた。給食室に関しては、子どもの成長に不可欠な「食」の要素を今後の教育・保育の中心に据え、園児・職員・保護者が「食」に対する関心を高め、その結果として「いのち」がより尊重される園へと成長できることを願って構想・計画した。また、満三歳児保育室は、乳児から幼児への橋渡しとなる大切な時期に、より温かい雰囲気の中で安心して過ごし、子どもたちの心に社会への信頼が育まれる場となるよう構想・計画した。当事業が完了した際に、より多くの子どもたちや保護者たちの安心と喜びにつながることを期待している。

令和6年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

自己評価項目		取組み状況
自信をもって勧められる園づくりを目指して③	3 自園の教育・保育の質について、教職員一人ひとりが主体的かつ時代性を意識した上で高めることができたか。	教育・保育を行う上で特に重視したことは「なぜするのか」という「ねらい」「目的」を明らかにすること。ともすると「今までこういう方法でやってきた」「昨年までこういうやり方だった」「いつもこうしている」ということが優先され、教職員が主体性を持つことなく、目の前の子どもたちの姿に寄り添うことなく、教育・保育がひとり歩きする恐れがあるが、その点において教職員一人ひとりが自己に厳しく進めることを大いに意識した。その結果、従来の形にこだわることなく「子どもたちの今年度の姿」を見極め、年度を通して子どもたちの意欲が育まれる環境を作ることができたと思う。（その姿勢は日々の保育だけでなく、生活発表会などにもよく表れていた）この取り組みは教職員にたくさんの発見と感動をもたらし、幼児教育の可能性を肌で感じ、幼稚園で働く喜びややり甲斐にもつながったと思う。こういったことの積み重ねが、結果、当園の教育・保育の質の向上にもつながっていると実感することができた。
	4 園の安定運営を目指し、教職員一人ひとりが園児獲得のため主体的に活動することができたか。	今、在園児の多くが園庭開放や見学など実際に園へ来て、教職員とコミュニケーションを取る中で入園を決めたという経緯がある。このことから、当園の魅力は来園者への「歓迎」の雰囲気であったり、教職員の丁寧さ、温かみ、また教育的にも「園生活を楽しみながら意欲が育まれる環境づくり」を大切にしていることなど、我が子を通わせたいと思える「信頼」を感じていただけることだと考えている。園の安定運営のためにはすぐに園児を増やしたい気持ちはあるが、そのために理念を曲げるのではなく、また、ただ無責任に増やすということでもなく、例えば短期的には園児獲得につながらないように見えたとしても、理念に忠実に、子どもたち一人ひとりと丁寧に寄り添い続けることを何よりも大切にしてきた。長期的に見れば、園の理念を守り続けることこそが園児獲得につながるのだとすべての教職員が信じ、園の一員として「自分事」として運営に関わることができたと思う。園庭開放や見学などは、例年通り定期的に行い、例年以上の参加者を迎えることができた。
	5 教職員が働きやすく、また互いに育ち合うことができる職場づくりに努めることができたか。	教職員が理念に忠実に、子どもたち一人ひとりに寄り添うためには、まずは教職員自身が園から尊重されなければならないと考えている。また、心に余裕があれば、同僚と力を合わせたり助け合ったりすることができ、結果的にはそれが子どもたちや保護者たちと丁寧に接することにつながるのだと考えている。「尊重」を実現するために、就業規則の大幅な見直しを行い、教職員が思いや意見を言える場であること、失敗や間違いを責められない場であること、「いじめ」が発生しない環境や雰囲気、文化があること、就業時間が守られること、プライベートが守られること、能力や経験に合わせ定期的な昇給が期待されること、残業も含め手当等が正当に支給されること、有給休暇が取れること、等への実現を具体化することができた。これらのことを実現することが心に余裕を作り、子どもたちや保護者たち、同僚たちと「育ち合う」意欲を育み、園全体の質向上につながっているのだと思う。
	6 防災・防犯、園の安全対策についての取り組みを行い、その内容を保護者や地域に周知することができたか。	地震や火災を想定しての避難訓練を毎月行い、また1月には不審者訓練も行うことができた。地震や火災についてはワンパターンに陥ることなく、様々な想定で行うことができた。また、今までは年齢的な理由などから満三歳児組のみ防災頭巾を用意していなかったが、今年度から用意し扱う練習をしたところ、クラスの園児すべてが正しく装着することができた。今年度は、園舎や園庭、高田本山等比較的安全な場所のみではなく、避難時に実際に道路を歩き、横断歩道を渡る練習も行うことができた。これからの活動は写真・動画でホームページやSNS（Instagram等）他インターネットを活用し広く発信することで、保護者や地域に周知することができた。AED訓練は園長が研修や勉強会に出席し、教職員へ伝達することができた。屋内消火栓を今回新たに設置し、大規模な火災に備えることができた。

IV. 園の評価

A : できた

B : おおむねできた

C : できなかった

B	<p>学校</p> <p>評価の主旨をよく理解し、すべての教職員それぞれが考えを出し合い主体的かつ積極的に取り組むことができた。また、個人で取り組むのではなく、教職員間で共有・実践することによりチームとして取り組むことができた。その結果、各項目についておおむね達成できたと評価している。今後も引き続き取り組みを行い、次年度に向けて具体的な課題を抽出し、さらなる質の向上を目指す。100周年事業に関しても、教職員一丸となって取り組みを進めていきたい。</p>
---	--

令和6年度 幼稚園 学校評価結果公表シート

学校法人 専修学園
高田幼稚園

V. 今後取り組むべき課題

自信をもって勤められる園づくりを目指して③	1	創立100周年へ向け具体的に「自信を持って勤められる園づくり」に取り組むことができたか。 (理念)	今後も教育理念を守り、子どもたちが「安心して」「意欲的に」学べる園であり続けることができるよう、教職員一人ひとりが理念と幼児教育への理解を深め、自己研鑽を積み重ねていきたい。
	2	創立100周年へ向け具体的に「自信を持って勤められる園づくり」に取り組むことができたか。 (施設整備)	当初の予定では今年度中に工事が終了し、給食室・満三歳児保育室ともに来年度4月から稼働する計画だったが、工事の遅れにより来年度6月からの稼働に変更となった。工事延期に関しては保護者への説明を詳細に行い、理解を得ていきたい。その上で、子どもたちや保護者たちに大いに喜んでもらえる施設を完成させ、この事業が高田幼稚園の可能性をさらに広げていくものとなるよう、「作って終わり」ではなく今後につながる事業となるよう教職員一同、尽力していきたい。
	3	自園の教育・保育の質について、教職員一人ひとりが主体的かつ時代性を意識した上で高めることができたか。	今、教職員皆が「ねらい」「目的」を明らかにし、従来の方法にとらわれない教育・保育を行っているが（あるいは目指すことができているが）、油断すると「園の都合」「先生の都合」「大人の都合」の中に子どもたちを置き、「したい！」ではなく「させられている」環境の中で子どもたちの意欲を削いでしまうことになりかねない。そのことを強く意識し、同僚と声を掛け合いながら、また保護者からの意見等も参考にしながら、細心の注意を払い、子どもの「今日」「今のこの瞬間」はたった一回しかない、その一回を逃してはならないと緊張感を持ち、誇りを持って今後も教育・保育を行っていきたい。
	4	園の安定運営を目指し、教職員一人ひとりが園児獲得のため主体的に活動することができたか。	園の安定運営、そのための園児獲得について教職員全体の意識は高まっているので、次年度はより多くの方に園庭開放や見学会に参加していただくための方法、アイデアを皆で相談し実践していきたい。経費の削減について教職員皆で意識を高め、無駄が生じないようにしていきたい。現在行っている事業や、今後行うべき事業等にも備え、教職員一人ひとりが「自分事」として経費削減に努めていきたい。
	5	教職員が働きやすく、また互いに育ち合うことができる職場づくりに努めることができたか。	違う価値観を持つ者同士が同じ職場にいるということ意識し、お互いにとって仕事をしやすい環境を作ることができるよう、今後も就業規則の見直しを定期的に行い、教職員一人ひとりが守られる職場づくりに努めていきたい。 「常識」や「正義」に依るのではなく、就業規則でルールをはっきりと定めることにより、お互いがやり甲斐と誇りを持って仕事を進めることができるような環境づくりを継続していきたい。
	6	防災・防犯、園の安全対策についての取り組みを行い、その内容を保護者や地域に周知することができたか。	来年度は不審者訓練の回数を年一回から二回に増やす。内容に関しても、パターンを増やし、様々な想定の下で行うようにする。また、警察にも相談をしながら行うようにする。 地震・火災訓練も同様に、専門家の意見を聞きながらさらに精度を上げるよう努める。 AED訓練は、園長だけでなくすべての教職員が実地的な訓練に参加できるようにする。

VI. 学校関係者の評価

A : できた

B : おおむねできた

C : できなかった

A	<ul style="list-style-type: none"> ・100周年に向けて、これまでの高田幼稚園の歴史を振り返り「まとめ」を作ってみてはどうか。 ・高田本山は外に誇れる場所なので「高田本山の園」であることや、高田本山がこういった場所なのかということSNS等も活用しながら積極的に発信して欲しい。 ・高田本山としては「家族皆で来られる本山」「また来なくなる本山」「家族や子どもの思い出に残る場所」を目指しているので、その中で高田幼稚園の果たす役割は大きいと考えている。 ・教育界や常識が日々変化していく中であって、子どもの「自立性」を育む教育は評価できる。 ・100周年事業を行うことによって、高田幼稚園が充実していると感じることができた。 ・AED講習に関しては、赤十字他、専門家に依頼し、子どもや赤ちゃんの人形を使用しながら実施するのも良いと思う。 ・理想を求めることはとても大切なことではあるが、教職員間で理解を深めるのは容易なことではない。そういったことはどのように伝えているのかを知りたい。教職員の側から考えれば、理想を求められ過ぎることが重荷や負担と感じることもあるのではないと思う。管理職側がいつも心に余裕を持って、柔軟な人材育成に取り組んで欲しい。 ・保護者の立場から考えると、園の事業や運営に関して、もっと意見交換の場が作られることを望んでいる。 他
---	---

VII. 財務状況・その他

公認会計士監査により、適正であると認められている。
